

ロボットもお手伝い？未来のごはんのしくみ

✓ SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんが大人になったとき、どんな社会になっているでしょうか。
日本はこれから、子どもが少なくお年寄りが多い社会になるといわれています。そうなると、ごはんをつくる人が足りなくなって、お年寄りや入院している人に、毎日ごはんをとどけることがむずかしくなるかもしれません。
そこで、ごはんでみんなの健康を支える会社「日清医療食品」では、「お膳の文化」を大切にしたごはんをずっととどけられるよう、未来にむけた取り組みを進めています。
たとえば、少ない人数でかんたんにつくれる料理を開発したり、「どんなごはんを、何時に食べたらいちばんからだいいか」を考えてごはんをつくったり。ほかにもAIやロボットを使ってごはんをつくるしくみづくりを進めるなど、いろいろなことを行っています。
よりよい社会にしていくためには、みんなで考えることが大切です。
まずは、どんなものを食べる未来がいいか？話し合ってみましょう。

✓ SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：少子高齢化のイメージ

画像参照：時間栄養学を取り入れたメニュー
(日清医療食品公式HPより)

この「持続可能な食事サービス」では、あらかじめ調理したごはんを病院や施設にとどけることで、はたらく人が少なくとも食事を用意しやすく、食材をむだなく使える工夫を取り入れています。また、人の体のリズムに合わせて「いつ・なにを・どのように食べるといいか」を考える「時間栄養学」を取り入れたメニューで、より健康に役立つ食事をつくっています。さらに、少ない人数でも料理のレベルを保てるように、調理を手伝うAIやロボットの活用も進めていく必要があります。日清医療食品には、日本の「お膳の文化」を未来につなぎたいという想いがあります。ごはん・汁物・おかずがそろった、しっかりとした食事を社会にとどけ続けられるように、これからもさまざまな取り組みを行っていきます。

✓ キーワード

少子高齢化

子どもの数が減り、お年寄りが増えていくことです。はたらく人が足りなくなるなど、さまざまな問題が起きます。

時間栄養学

体のリズムに合わせて、「いつ・なにを・どのように食べるか」を考える勉強です。栄養が足りなくなることを防ぎ、健康でいられるための助けになります。

お膳の文化

日本に昔からある、「一汁三菜」のようにごはん・汁物・おかずがそろった和食や、おもてなしの心を大切にした食事のことです。世界文化遺産にもなっています。

✓ 対象ゴール



みなさんにできること！

未来の食事はどうなるといいか？考えてみましょう。

- 日本では少子高齢化が進み、今まで通りごはんをとどけ続けることがむずかしくなる。
- 「日清医療食品」では、おいしくて安全な食事をとどけ続けられるよう、未来に向けた取り組みを進めている。
- 時間栄養学やAI・ロボットを取り入れた食事づくりは、人が少なくともごはんをしっかりととけるための工夫になる。

メモ



SDGs ラジオ